

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



# 2010年度環境活動レポート

(2010年 10月～2011年 9月)

作成日: 2011年12月5日

## 《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、  
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」  
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。  
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なって参ります。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

### <環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

### <環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2011年07月07日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

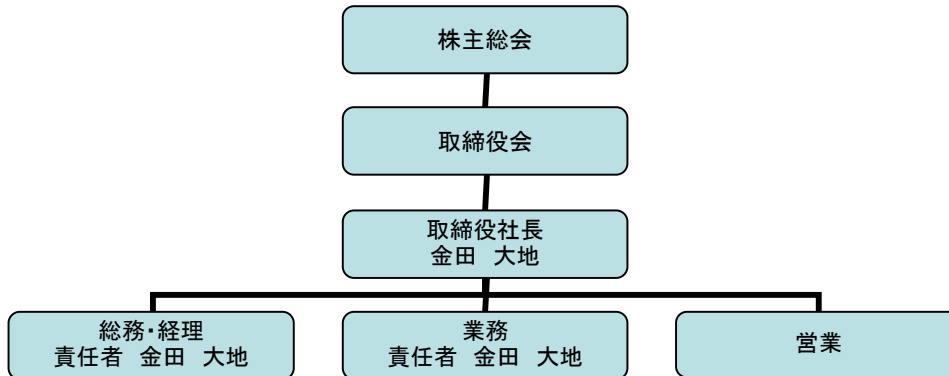
(1) 事業所名及び代表者名  
 有限会社 金田商事  
 取締役社長 金田 大地

(2) 所在地  
 本社:兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号  
 本社工場: 同上

(3) 設立年月  
 平成17年10月3日

(4) 資本金  
 金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



前会社法の定める有限会社となっております。

- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっておりません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
 責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708  
 担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)  
 ・金属くず商 ・産業廃棄物収集運搬業  
 ・古物商 ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 3.24億円 (2010年度)  
 主要商品取り扱い量 6,052トン (2010年度) ※事業年度期末時点

活動規模	単位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
取り扱い数量	t	8,018	6,198	7,120	6,052
内訳: 金属スクラップ	t	8,007	6,184	7,108	6,045
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	11	14	12	7
産業廃棄物(収集運搬)	m <sup>3</sup>	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	477	172	286	324
従業員	人	3.0	3.0	4.0	4.0
床面積	m <sup>2</sup>	580	580	580	580
保有貨物車両台数	台	3	3	3	3
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	3	3	3	4

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分:事務機器類

◆扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 2700132377号

許可の年月日:平成19年1月22日

許可の有効年月日:平成24年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.金属くず 3.ガラスくず(※)(石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上3種類

(※)「ガラスくず」とは「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず」のことで。

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

2.)大阪市許可番号 6600132377号

許可の年月日:平成19年1月29日

許可の有効年月日:平成24年1月28日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.ゴムくず 3.金属くず 4.ガラスくず(石綿含有産業廃棄物を除く)

以上4種類

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月29日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディー車	1
7t積み平ボディー車	1
4t積みユニック搭載平ボディー車	1
荷役車両	台数
2.5t揚力フォークリフト	3
油圧式バックホー(0.25クラス)	1

※取引先構内車を含む。

(11) 処理実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
廃プラスチック	t	11	14	12	7
産業廃棄物収集運搬 合計	t	11	14	12	7

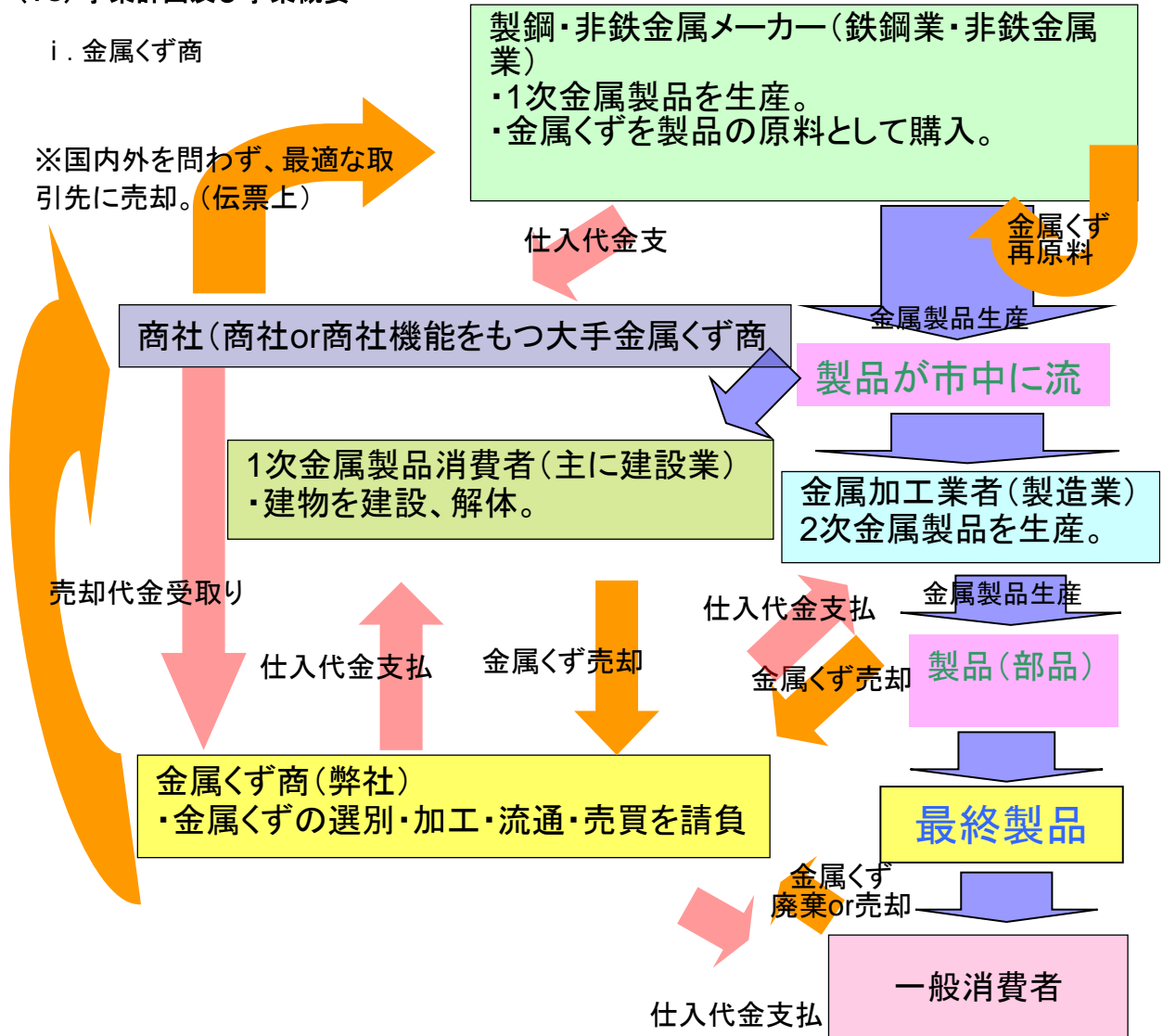
(12) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

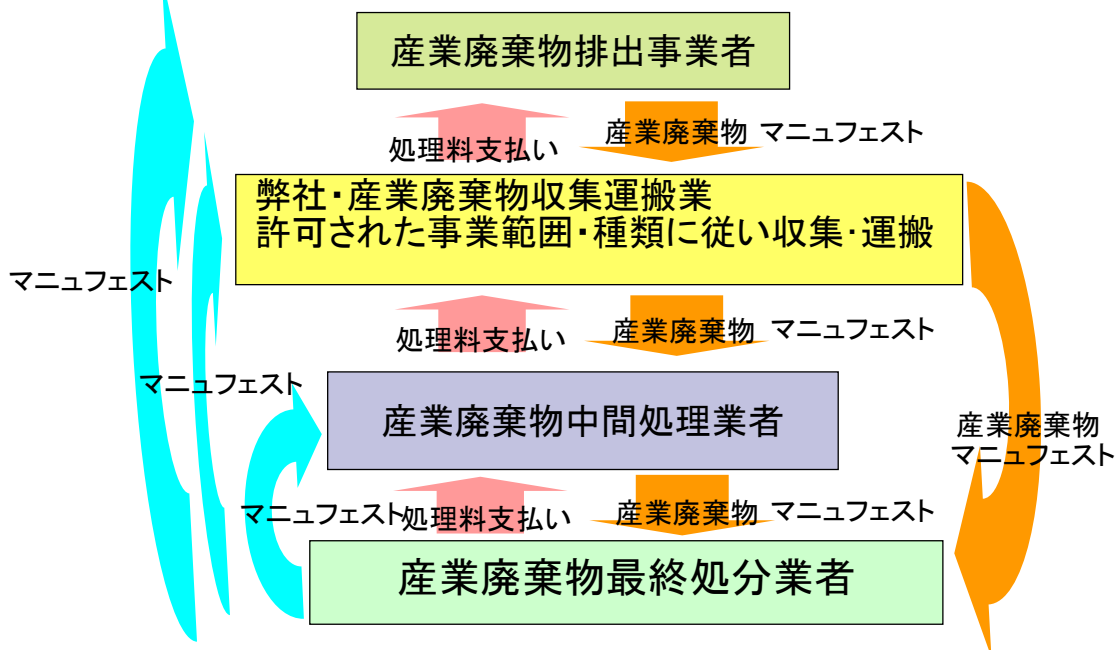
(13) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商

※国内外を問わず、最適な取引先に売却。(伝票上)



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2007年 (基準年度)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO <sub>2</sub> /年	53,469.69	47,249.23	48,375.70	44,061.96
二酸化炭素排出量 (LPG、2008年度へ修正 変更後)	kg-CO <sub>2</sub> /年	56,216.49			
廃棄物排出量	kg/年	1,620.00	3,580.00	3,260.00	5,460.00
一般廃棄物量排出量	kg/年	170.00	2,110.00	920.00	900.00
産業廃棄物排出量	kg/年	1,450.00	1,470.00	2,340.00	4,560.00
総排水量	m <sup>3</sup> /年	24.00	30.00	32.00	37.00
受託した産業廃棄物の 処理量	トン/年	11.43	14.13	12.13	6.99

□環境目標及びその実績 \*2009年度末までは、電力使用量の二酸化炭素排出係数は0.378kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

・環境負荷削減目標 \*2010年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.366kg-CO<sub>2</sub>/kWhに変更使用。

項目	年度	2007年	2010年		2011年
		(基準年度)	(目標)基準 年度比98%	(実績)	(目標)基準 年度比97%
1.電力の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,632.39	2,579.74	3,446.62	2,553.42
2.軽油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	43,236.03	42,371.31	32,716.33	41,938.95
3.ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	4,900.91	4,802.89	3,538.23	4,753.88
4.灯油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	358.84	351.66	533.27	348.07
5.LPGの二酸化炭素排 出量削減(基準年度を通期 使用実績のある2008年度に 変更)	kg-CO <sub>2</sub>	5,088.32	4,986.56	3,827.50	4,935.67
二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	56,216.49	55,092.16	44,061.96	54,529.99
6.一般廃棄物の削減	(kg/年)	170.00	166.60	900.00	164.90
7.産業廃棄物の削減	(kg/年)	1,450.00	1,421.00	4,560.00	1,406.50
8.節水	(m <sup>3</sup> /年)	24.00	23.52	37.00	23.28

・取り扱い数量目標

項目 \ 年度		2007年	2010年		2011年
		(基準年度)	(目標)基準 年度比110%	(実績)	(目標)基準 年度比115%
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:基準年度比110%)	トン/年	8,007.41	8,808.15	6,045.41	9,208.52
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:基準年度比110%	トン/年	14.13	15.54	6.99	16.25

・グリーン購入の推進

項目 \ 年度		2009年	2010年	
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比+1品・点	(実績)
11.グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数 /年	5	6.00	6.00

・地域貢献活動

項目 \ 年度		2009年	2010年	
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比+1回・+1 本	(実績)
12.弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回/ 年	1	2.00	3
清掃活動…空き缶・ペット ボトル拾い	単位:本/ 年	19	20	20
項目 \ 年度		2009年	2010年	
		(基準年度) 実績	(目標)基準 年度比101%	(実績)
②周辺住民の方々からの 金属くず買い受け。	単位:kg/ 年	1,745.70	1,763.16	561.80

□環境活動の取り組み計画と評価

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
<b>1.電力の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	2,632.39	kg-CO2	目標未達成
*2010年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.366kg-CO2/kWhに変更使用。 ①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動 ③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。 <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○設定温度を遵守できている。 ②…△クールビズが出来ていない。 ③…○必要な場所以外消灯している。	目標	2,579.74	kg-CO2	冷暖房の設定温度は、引き続き冷房28℃暖房20℃としているが、Co2排出量は、依然目標値の1.3倍と高止まりしている。しかし前年度末の今後の活動決定に基づき、自販機1機の撤去(H.22.11月実施完了)、1階作業場の照明器具改新とon/offスイッチを増設(H.23.2月実施完了)、くわえて従来設置の自販機をヒートポンプ式に交換(H.23.2月実施完了)と電力消費によるCo2排出量削減に努めた結果、12ヶ月間中、累計目標は未達成となったが、8、9月次で目標を達成することができ、節電の効果が出ている。 今後、照明のon/offスイッチを増設と2階照明器具を現状より、省エネタイプに替えることを検討。
	実績	3,446.62		
	削減量	-866.88	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.34		
<b>2.軽油の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	43,236.03	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○出来るだけ行っている。 ②…○出来るだけ行っている。 ③…○出来るだけ行っている。 ④…×車両の買い替え無し。 ⑤…△自主点検・清掃のみ。	目標	42,371.31	kg-CO2	エコドライブの定着と運搬効率の向上で、Co2目標値を23ポイント下回り、目標達成となった。しかし、大震災の影響もあり、商品の取扱量が基準年度実績の24.5%減、目標値比では、31%下回っており、前年度末よりも、車両の運休状態が増加したための不本意な目標達成ともいえる。 燃費の管理について、原単位での個別評価の採用を検討したが、事務作業が煩雑すぎる欠点がある。今後、容易な管理方法を考えたい。
	実績	32,716.33	kg-CO2	
	削減量	9,654.97	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.77		
<b>3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	4,900.91	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○出来るだけ行っている。 ②…○出来るだけ行っている。 ③…○出来るだけ行っている。 ④…×車両の買い替え無し。 ⑤…△自主点検・清掃のみ。	目標	4,802.89	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、26%減の目標達成となったが、前年度にくらべ、削減率が伸びなかった。しかも商品の取扱量も基準年度実績を24.5%下回っており、事業活動の低迷によっての不本意な目標達成ともいえる。 燃費の管理について、原単位での個別評価の採用を検討したが、事務作業が煩雑すぎる欠点がある。今後、容易な管理方法を考えたい。
	実績	3,538.23	kg-CO2	
	削減量	1,264.66	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.74		



取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
<b>4.灯油の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	358.84	kg-CO2	目標未達成
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 ②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームピズ運動  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 貸与制服に防寒具を加えた。	目標	351.66	kg-CO2	営業・就労時間の延長、パート雇い入れに伴い、使用量が増加。目標値の1.52倍の排出量。結果、未達成となった。
	実績	533.27	kg-CO2	
	削減量	-181.61	kg-CO2	寒冷期には、冷気を遮断する断熱シートの使用を決定。
	目標対実績比率	1.52		
<b>5.LPGの二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	5,088.32	kg-CO2	目標達成
(基準年度は2008年度) エコドライブ 運動展開  ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…△ 自主点検・清掃のみ。	目標	4,986.56	kg-CO2	このLPGは、午前・午後の1日計2便へ鉄スクラップを積み込むフォークリフトの燃料だが、スクラップの発生量の減少により、1日1.5便となり、使用頻度が約2/3になったため、目標値より、23.0%の削減となった。
	実績	3,827.50	kg-CO2	
	削減量	1,159.06	kg-CO2	ひきつづき、フォークリフトのエコドライブ・エコ操作を心がける。
	目標対実績比率	0.77		
<b>6.一般廃棄物の削減</b> <b>※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったので、評価は、1面的です。</b>	基準年度	170.00	kg	目標未達成
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	目標	166.60	kg	両面印刷、裏紙の使用は、定着した。仕入顧客による商品持ち込み時に、ダンボール梱包での取引があり、依然増加傾向。しかし、汚れの少ない紙類に関しては、すべて古紙リサイクルへまわしている。
	実績	900.00	kg	
	削減量	-733.40	kg	分別ボックス(エリア)を設置し、再資源化できないごみは、廃棄、資源ごみは集積し、引き渡している。
	目標対実績比率	5.40		今後、商品の取り扱いに準じて発生する一般廃棄物に関しては、削減目標とせず、弊社発生廃棄物と再生事業者へ引き渡した数量を管理することを検討。
<b>7.産業廃棄物の削減</b>	基準年度	1,450.00	kg	目標未達成
①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…△ 大まかな品目ごとに分別。  ②…△ 別段教育は行っていないが、品目ごとの分別は皆行っている。  ③…△ 一部再生事業者へ売却。	目標	1,421.00		選別を要する商品の取り扱いも増え、それに伴い残渣が増加発生。有価物化の可能な品目については、一部の品目について、再生事業者を見つけ出し、本来産廃となる、木製リールドラム(バージン品)と鉱物系油類の再生事業者との取引により、少量ながら削減への糸口がみえた。
	実績	4,560.00	kg	
	削減量	-3,139.00	kg	今後、商品の取り扱いに準じて発生する一般廃棄物に関しては、削減目標とせず、弊社発生廃棄物と再生事業者へ引き渡した数量を管理することを検討。
	目標対実績比率	3.21		

取り組み計画	達成状況		単位口	評価(結果と今後の方向)
<b>8.節水</b>	基準年度	24.00	m <sup>3</sup>	目標未達成
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。 ②…○ 手洗い時の水の出っ放しをしないよう指示教育した。	目標	23.52	m <sup>3</sup>	節水の呼びかけは、行なっているが、未達成。原因は判明しており、 ・ガス溶断時 除熱・消火準備水。 ・所内清掃回数の増加 であり、業務に必要な使用であり、問題ではない。今後も、出来る限りの節水を行う。  無駄遣いをせず、使用量が大幅に増加しないように今後管理していくことに重きを置くようにした。
	実績	37.00	m <sup>3</sup>	
	削減量	-13.48	kg	
	目標対実績比率	1.57		
<b>9.有価物の取り扱い量増加</b>	基準年度	8,007.41	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 仕入顧客登録数前期末比純増数274件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	目標	8,808.15	t (トン)	月次、累計目標ともに達成ならず。仕入において、震災と取引先生産拠点の海外移転の影響が大きく、目標値を平均30%超下回っており、昨年度より、さらに厳しい結果となった。今後も、主要取引先の大幅な発生量増加は、見込めないことから、経営の観点からも取扱量増加をめざし、新規設備を導入した。(9月末始動)目標達成に向け努力する。  一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化で、取り扱い数量を伸ばす。絶対値としての環境負荷が増すことになるが、目標達成には、設備・人員の増強が不可欠と判断する。加えて、目標設定が高すぎるので、見直すことを決定。
	実績	6,045.41	t (トン)	
	増加量	-2,762.74	t (トン)	
	目標対実績比率	0.69		
<b>10.産業廃棄物の取扱量増加</b>	基準年度	14.13	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…△新規契約数前期末比純増数2件 ②…× 既存産廃処理事業者との関係性により、積極営業に出れなかった。 ③…× 経理的基礎を重視するため、価格の減額を行なわなかった。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	目標	15.54	t (トン)	既存顧客からの産廃発生量減少により、目標を達成できなかった。産廃事業に関しては、経理的基礎を重視するよう求められており、さらに許可区分が、収集運搬のみなので、価格競争力は期待できない。アイデアと丁寧で柔軟な対応で、取扱量を増やしていきたい。  翌事業年度に、許可更新を控えており、その際に、収集運搬の産廃種類を3種類から8種類に増やすことを決定。幅広い業種からの業務委託を受注する。
	実績	6.99	t (トン)	
	増加量	-8.55	t (トン)	
	目標対実績比率	0.45		
<b>11.グリーン購入の推進</b>	基準年度	5.00	品・点数	目標達成
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、1品数・点数以上増加させる。[単位:品数・点数]  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ マークのリストを備え置いた。	目標	6.00	品・点数	評価:良い。消耗品を中心に、グリーンマーク、エコマーク、省エネマーク等のリストにある物品やリサイクル品の購入を心がける雰囲気、社内に根付き購買行動が変化してきたことが評価できる。今後も知識を深め環境負荷低減を目指していく。
	実績	6	品・点数	
	増加量		品・点数	
	目標対実績比率			

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価(結果と今後の方向)
<b>12.地域貢献活動</b>	基準年度	1	回	目標達成
		19	本	
①清掃活動。	目標	2.00	回	
投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量	実績	3	回	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	増加量	20	本	
	目標対実績比率		本	
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	基準年度	1,745.70	kg	目標未達成
目標:買い受け数量を前年度比1%増加させる。	目標	1,763.16	kg	
主要買受け品目:アルミ缶・金属製不用品	実績	561.8	kg	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 自治会・子供会から買取りを行うことが出来た。	増加量		kg	
	目標対実績比率			今後より知識を広める活動を行なうことで、地域に貢献できるよう努力したい。
<b>総括</b> 取締役社長 兼 環境管理責任者 金田 大地				
<p>・12項目中、達成が5項目、未達成が7項目となり、全体評価としては悪い結果となった。しかし、達成手段の実践状況の評価から分かるように、従業員の環境意識は向上しており、皆が考え、行動していることが日々の業務の中で窺える。CO2の排出量は、実績(基準年度)対実績(本年度)で、21.6%減、目標(本年度)対実績(本年度)では、20.00%減となり、主に車両関係の化石燃料消費から発生するCO2排出量を削減できた。しかし、それさえも取り扱う商品の数量減少に起因するもので、素直に喜べるものではない。7月の中間審査時に、審査人より指摘があったように、6.一般廃棄物、7.産業廃棄物の削減目標については、金属くずと廃棄物を選別するという事業活動と相反する部分があるので、次年度より、目標設定から精査し、環境方針の変更まで視野に入れ見直しを行い、削減に代わる方針を掲げることとした。今後の活動としては、取組計画中、業績に直結する3項目(9.有価物の取り扱い量増加、10.産業廃棄物の取扱量増加、12.地域貢献活動②)に力を入れ、重点的に目標達成に向け努力する所存である。</p>				

### □環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)
廃棄物処理法(収集・運搬業)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上)第21条の4
フロン回収破壊法	事務所空調機
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。
自動車から排出される窒素化	自動車NOx・PM法 適合車の使用。
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

### □訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

### □外部からの苦情

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも苦情などの申立はありません。

## □その他の取り組みを紹介

### ①金属スクラップ中のダスト選別過程

仕入れた金属スクラップをよりリサイクル効率の良い金属資源へと生まれ変わらせるため、選別・分別を行ないます。この過程で、産業廃棄物が発生します。

#### 例1 (2010.12月)

鉛 雑品(ダスト付き) 処理報告 ※鉛バラスト

数量: 15,750kg

有限会社 金田商事にて、布地と鉛を選別。鉛は、二次精錬事業所へ納入。  
選別ダストである布地は、金田商事が排出者として、産業廃棄物処理業者へ処分委託。



①鉛 雑品(ダスト付き)キャンパス布地に包まれた鉛を取り出しました。  
残った布地は、弊社発生の産業廃棄物となり、可燃物をRPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ運搬、処分。  
最終的に、熱エネルギーとして再利用されます。

取り出した鉛スクラップ  
数量: 15,300kg

取り除いた布地=産業廃棄物(ダスト)  
数量: 450kg

#### 例2 梱包された金属類(2011.03)



- ①仕入れた金属類の梱包を解いて、金属の種類ごとに分別。
- ②選別後、残った梱包材(ビニール、ゴム、等)は、弊社発生の産業廃棄物となり、可燃物をRPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ運搬、処分。  
最終的に、熱エネルギーとして再利用されます。
- ③梱包材のうち、紙類は、全量を古紙再生問屋へ納入・売却。

## ②エコアクション21についての周知活動。

取引先や周囲の方々にエコアクション21について知っていただくため、看板や各車両にEA21マークを表示しています。

弊社 社屋看板



保有運搬車両



保有運搬車両



保有運搬車両 拡大



※EA21ロゴマーク使用については、使用規定を守り、認証・登録事業者名、認証・登録番号、認証・登録の対象活動範囲を明示しております。

以上